

## 「遊技をしない人々の目線を含めた取り組みの推進」「業界全体としてののめりこみ問題対策」「遊技機の不正改造対策」「賞品取りそろえの充実」、これらの取り組みの維持継続を要請。

皆様明けましておめでとうございませう。旧年中は警察行政の各般にわたり深い御理解と御協力を賜ったことに対しまして、この場をお借りして御礼申し上げます。また、本年も宜しくお願いいたします。

さて、昨年4月1日付けで保安課に着任し、約10カ月が過ぎようとしています。昨年1年を振り返りますと、まず印象に残ったのが、1円ぱちんこ等の低貸玉営業であります。民間調査によれば、1円ぱちんこに代表される低貸玉営業は全体の6割近い店舗で導入され、これより更に安い0.5円ぱちんこも増加傾向にあると聞きます。現在の厳しい経済不況下においても各ホールが創意工夫され、お客さんが、勝ち負けよりも、少ない投資金額で、時間をかけて、遊技そのものの面白さを楽しんでもらえるよう努力されていることを強く感じました。また、そのほかいく

つか印象に残ったものを挙げますと、まず、これは私が着任する前の話ではありますが、昨年1月、貴団体・日遊協・日工組・日電協の4団体で遊技機の販売方法に関する合意書を取り交わされ、いわゆる大量導入優先販売や「抱き合わせ販売」といった販売方法の禁止等について合意されました。また、パチンコ攻略法問題については、販売等の名目で詐欺等が多発していることに対応すべく、貴団体を含めた業界7団体で構成するセキュリティ対策委員会において、ウェブサイトやポスターにより注意喚起するなどの従来からの対策に加え、ウェブサイトに相談窓口を設けて被害の未然防止等を図られたほか、国民生活センターと協力して更なる注意喚起を実施されました。中古機移動については、貴団体を含めた業界6団体で構成する中古機流通協議会において、型式の同一性の確保、責任の所在の明

確化の観点から、セキュリティを確実に確保できる移動方法について精力的に検討を行っていただきました。

そして、昨年末には、遊技業界の14団体による「パチンコ・パチスロ産業21世紀会」の全体会合が2年ぶりに開催され、私もご挨拶をさせていただきましたが、その後、全体会議において活発な議論が行われたと聞いております。

また、業界をあげてのこのような取組みと並行して、厳しい経済環境における組合員の金融環境改善のため、中小企業庁等に対し、ぱちんこ営業を信用保証の対象にすること、あるいは公的融資の対象とすることを求めて陳情するなど、ホール団体を代表して懸命な活動を継続していると承知しております。

このように業界が団結して、業界の課題などに対して真剣かつ前向きに取り組まれていくことは、業界の健全化という観点からも大変意義のあることと思えます。今年もこのような取組みを継続して推進していただければと願うところであります。今日は若干お時間をいただいているところでもありますので、新しい年を迎えて皆様方に、ぱちんこが、よ

り健全な大衆娯楽としての位置付けを盤石なものとするために必要と考えられることを何点かお話しさせていただきます。

1点目は、現在ぱちんこをしない方を含めた目線に立った取組みの推進ということです。

ぱちんこ産業の現状について申し上げますと、財団法人日本生産性本部の「レジャー白書2009」によるところでは、市場規模は年々減少し、かつて30兆円と言われていたものが、平成20年は21兆7千億円と前年比5.5%の減少となっております。ただ、平成19年と比較すると、下げ幅は縮小しております。一方で、平成20年のぱちんこ参加人口は、前年に比べ130万人ほど増加して1580万人となり、4年ぶりに増加に転じています。これは、平成16年の規則改正以降、業界全体の取組みとして、射幸性を抑え、より広い層の方でできるだけ手軽に安く安心して遊技ができるよう、1円ぱちんこ等の低貸玉営業の導入が促進されたことや、ホール・メーカー・販社が協力して「遊パチ」の構築に取り組まれるなど創意工夫された結果、ぱちんこ人口の増加に反映されたものと考えております。ぱちんこ営業が

大衆娯楽としての地位を確固たるものとすべく、今後も、健全化に向けたアイデアを出し合って前進していただきたいと思えます。

また、私どもとしては、ぱちんこをしない方にも、ぱちんこ業界が、経営上の利益のみを求めているものではなく、負の側面も直視して、のめり込み対策、低射幸性遊技機の開発、環境対策、社会貢献活動等の様々な対策を講じていることをPRすることは、業界の健全化、大衆化という観点から必要不可欠なことであると考えております。

2点目は、のめり込みの問題です。この問題に対応する機関として、先ほど触れましたが、貴団体の支援で設立された、ぱちんこ依存問題相談機関「特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク」の活動があります。昨年5月、西村直之代表理事が警察庁にお立ち寄りの際にお話しを伺いましたが、この取組みは、のめり込みという負の側面に正面から対処するものとして、継続していくことに意義があると言えます。リカバリーサポート・ネットワークは、昨年10月に特定非営利活動法人の法人格を取得され、昨年12月に開催され

た21世紀会において、貴団体から、当法人を支えていくことを提案されましたが、このような取組みは評価すべきものであり、今後も、業界全体として引き続き支援されることを期待します。

当法人におかれましては、平成18年の設立以来、相談件数は年々増加しており、平成20年度は1年間で合計1187件の電話相談があつたということです。また、今年度は、昨年4月1日から12月末までに993件の電話相談があり、1ヵ月平均で約100件の相談が寄せられていることとなり、着実に実績を挙げられているところでもあります。しかしながら、依然として、ぱちんこののめり込みが要因となって犯罪に走つたというような報道や児童の車内放置事故が散見されます。一昨年4月に鹿児島県下で発生した死亡事故に引き続き、昨年8月にも秋田県下のホール駐車場内で、熱中症によると思われる死亡事故が発生し、母親が保護責任者遺棄致死罪で逮捕されるという事件に発展するなど、残念ながら2年続けてこのような事故が起きてしまいました。

他方、子供事故防止対策を徹底するために、貴団体においては、子供事故防止「強化月間」等を設

け、各都府県方面遊協に対して周知徹底を継続して、ホール駐車場内の巡回活動等に取り組まれた結果、昨年4月1日から12月末日までに42件の事故を未然に防止されたと聞いています。また、昨年の死亡事故を認知した直後に「緊急通達」を發出して再発防止を図っていることも承知しています。このような懸命な取組みによつて、被害を最小限に食い止めていると言つても過言ではないと思えます。今後も、業界内の対策として、店舗ごとの事故防止対策の徹底を図られ、今年の事故が0件となり、これを毎年更新していくことを期待しております。

そのほか、最近少し気になるのが、ぱちんこ店におけるATM機の設置に関することです。昨年、関東、関西地区のホール約130店舗に銀行ATMが設置され、試験導入を実施していることを聞いております。このATM機設置については、これまでもお願ひしてきたとおり、利用する客の視点に加えて、社会からどのような見られているのかといった点など、多角的な面から検討を重ねた上で、対応していただきたいと思います。